

アレクサンドル・リトビネンコ追悼集会

ロシアの闇とチェチェンの平和を考えるー

中澤孝之(ロシア研究者) / 司会 岡田一男(映像作家)

2007.11.23
13:30~

文京シビックセンター4F
シルバーセンターホール

アンナ・ポリトコフスカヤを
殺したのはプーチンだ

Memorial gathering for Alexander Litvinenko

アパート連続爆破事件の犯人に、
チェチェン人は一人もいなかった

ロシア情報機関に
協力すれば犯罪は帳消しだ

特別上映!

[追悼/
アレクサンドル・リトビネンコ]

[踊れ、グローズヌイ!]のヨス・デ・ブッター
監督によるドキュメンタリー作品を会
場で上映。こんな作品には何の影響力
もありませんが、この私を悪役に仕立
てるなど、テロにほかなりません。

(2007年制作 55分間)

プーチン大統領

中澤孝之さんに聞くロシア治安機関の危険
特別上映 [追悼/アレクサンドル・リトビネンコ]

11月23日(金 祝日) 13時30分~16時30分(開場13時00分)

中澤孝之(ロシア研究者) 岡田一男(司会 映像作家)

主催:チェチェン連絡会議

文京シビックセンター4F シルバーセンターホール 参加費:1000円

交通:東京メトロ丸の内線・南北線後楽園駅徒歩1分都営地下鉄三田線

大江戸線春日駅徒歩1分 JR総武線水道橋駅徒歩8分



独裁化するロシア社会を象徴するような人物が、昨年死亡しました。元FSB（ロシア連邦保安庁）将校、アレクサンドル・リトビネンコ氏です。

リトビネンコ氏は、99年にモスクワなど数箇所の都市で発生した謎の連続アパート爆破事件が、「ロシア治安機関による陰謀だ」と主張していました。なぜ、国を守るはずの治安機関が、数百人ものロシア国民を殺戮したのか？ そこには、現代ロシア最大の問題といえる、チェチェン戦争がかかわっています。この連続爆破事件を「チェチェンのテロ」と断定することによって、プーチン首相(当時)は第2次チェチェン戦争に乗り出したのです。

リトビネンコ氏は、この連続事件のひとつ、「リヤザン事件」に注目します。これは、ロシアの都市リヤザンで未遂に終わった爆破事件で、地元警察が発見した爆薬、起爆装置を、FSBがいち早く回収し、「爆薬ではなく、砂糖だった。テロではなく、演習だった」という不可解な発表をしています。これは事実を大きくねじまげたものでした。また、アパート連続爆破事件の犯人はいまも逮捕されていません。

イギリスに亡命し、ロシア政府が隠す陰謀を暴きつづけたリトビネンコ氏は、2006年11月23日、何者かが投与した放射性物質、ポロニウム210によって暗殺されました。

この集会では、6月に日本でも刊行されたリトビネンコ氏の著作「ロシア 闇の戦争」（光文社刊）の監訳を務められたロシア研究者の中澤孝之さんをお招きし、現代ロシアの実情に迫ります。



チェチェン連絡会議について チェチェン連絡会議は、チェチェン戦争の平和的解決のために活動しているNGOと個人が集まり、この問題への関心を日本の社会で喚起するために結成されました。戦争を少しでも早く終わらせるために、日本の国内でロシア軍の侵攻に反対する声を高め、各国の支援組織との連携を深め、国際世論としてのチェチェン戦争反対、ロシア軍の撤退を強く要求していきたいと考えています。ぜひみなさまのご協力と、参加をおねがいします。

連絡先: 146-0082 東京都大田区池上6-30-17 Tel&Fax: 03-3755-7096
Mail: clc@chechennews.org Web: <http://chechennews.org/clc/>
郵便振替口座番号: 00180-6-261048 加入者名: チェチェン連絡会議

アレクサンドル・リトビネンコ Litvinenko, Alexander

1962年ウォロネジ生まれ。’88年からソ連国家保安委員会（KGB）防諜局、’91年からロシア保安省（MB）、連邦防諜庁（FSK）、連邦保安庁（FSB）に在籍、反テロ活動と組織犯罪撲滅を専門とする。’97年、最も秘密の部門とされる犯罪組織分析局の上級作戦将校・第七部副部長。’98年11月、モスクワでの記者会見でFSBから受けた違法な暗殺指令などを暴露した。翌’99年から2000年にかけて逮捕、監獄収監、釈放を繰り返す。’01年5月、英国で政治亡命が認められ、’06年10月に英国市民権取得。’06年11月、ロンドンで殺害。

中澤孝之(ロシア研究者)

1935年生まれ。東京外国語大学ロシア語科卒。時事総合研究所客員研究員。時事通信社に入社、経済部記者、モスクワ支局長、外信部長などを歴任。県立新潟女子短期大学教授、長岡大学教授を務めた。日本対外文化協会理事。主な著書に『資本主義ロシア』（岩波書店）、『ブレジネフ体制のソ連』（サイマル出版会）、『オルガルヒ』『現代ロシア政治を動かす50人』（共に東洋書店）、訳書に『スターリン』（心交社）、『エリツィンの手記（上・下）』（同朋舎出版）など。

【書籍紹介】「ロシア 闇の戦争 プーチンと秘密警察の恐るべきテロ工作を暴く」

アレクサンドル・リトヴィネンコ／ユーリー・フェリシチンスキー
中澤孝之／監訳 （2007光文社） 定価 1,890円(税込み)

本書は、1999年9月、ロシア全土を震撼させた連続アパート爆破事件の真相を追究した衝撃のノンフィクションである。事件後、「チェチェン人のテロリスト」撲滅をスローガンに第二次チェチェン戦争が始められた。その過程で当時ほとんど無名だったプーチンは大統領へと昇りつめていく。その裏で何が起きていたのか……。

チェチェン戦争とは ロシア南部に位置するチェチェンは、19世紀にロシアが併合した地域で、先住民族のチェチェン人が人口のほとんどを占めている。1991年のソ連邦崩壊の際、チェチェンは独立を宣言したが、94年、ロシア政府は武力侵攻を開始した。その後3年間の休戦をはさんで、泥沼の戦争が続いている。この戦争によって、人口100万人のうち、すでに20万人の民間人が犠牲になったと言われている。

